G-08

ランド・アートとしてのモエレ沼公園が環境問題に果たす役割
――ゴミ埋立地の公園造成から札幌国際芸術祭 2017 までの歩み

八幡 さくら（東京大学 IHS 特任研究員）

まず概要についてですが、札幌にあるモエレ沼公園の事例から、ゴミ処分という環境問題に対してアートを介することで、行政と市民の協働による持続的な活動の可能性を提示するということにあります。

その背景には現代における自然と芸術の関係というものがあります。近代における、とりわけ美学においては、芸術の模倣対象としての自然というものが考えられてきました。しかし、現代の都市における自然というのは、全く手つかずの、純粋なという言葉がありましたが、自然というのは存在するとはいえません。ほぼ何らかの形で手が加わった人工的自然がほとんどです。それでは人工と技術の共存環境である公園というものに視点をあててみました。そしてアートとしての公園が自然観や環境意識に果たす役割とは何だろうか、ということを考えました。

事例対象として先ほどあげたモエレ沼公園について取り上げます。これは彫刻家のイサム・ノグチが作った、ゴミの埋立地の上に造成された非常に広大な土地の公園です。この造成史と市民活動を分析すると、この２点、行政と市民の協働と公園の質に関係することが重要であるということが分かりました。

２点目の方にとりわけ焦点を絞ると、身体を通した美的体験が可能であり、そこでは自然と芸術の総合した存在である公園をアート作品としてみなし、それを作品とみなすことで、美的価値づけによって作品保護の意識がうまれるということです。そして結論の部分ですが、このような意識、価値の意識が高まることによって埋め立て地の記憶を想起させるような芸術祭というのも開催されるようになりましたし、そしてさらに芸術としてだけではなく人工的な自然というものを価値づけるという反対の方向も生まれてきます。ここに来る人に環境問題への意識喚起を行なうことができるという特徴があるということです。以上です。

ランド・アートとしてのモエレ沼公園が環境問題に果たす役割
—ゴミ埋立地の公園造成から札幌国際芸術祭2017までの歩み—

八幡さくら（東京大学大学院・IHS・特任研究員）

概要：札幌市・モエレ沼公園の造成から2017年札幌国際芸術祭の開催までの歴史を検証し、ごみ処分という環境問題に対してアートを介することで行政と市民が協働で行う持続的活動の可能性を呈示する。

0. 問題の背景

◆ 近代美学における自然と芸術の関係
- 自然＝芸術の源泉、模倣対象　Cf. Winckelmann
- ロマン主義的有機的自然観　Cf. Schlegels, Schelling
- 自然VS芸術

◆ 現代芸術の自然
- 1970年代以降ランド・アート
- 自然と人間の関係再考

◆ 現代の都市の自然
- 環境的・無垢な自然VS人工的自然
- 公園＝自然と芸術（技術）の共存する環境

⇒アートとしての公園は、我々の自然観や環境意識にどのような変化をもたらすか？

1. 事例：モエレ沼公園の概要

- モエレ沼公園（アイヌ語「モイレ・ベツ」＝静かな水面）
- 所在地：北海道札幌市東区
- 事業主体：札幌市
- マスタープラン：イサム・ノグチ
- 『公園全体が彫刻』
- 面積：186.8ha（内陸部100ha）
- 造成工事費：270億円
- ゴミ埋立量：約270万t
- 施設：ガラスのピラミッド、海の噴水、モエレ山、etc.
- 環境配慮：雪冷房システム、一時雨水貯水池、グリーン電力、沼地保全

◆ 埋立地上に造成された公園
◆ 都市生活に不可欠なゴミ処理

2. モエレ沼公園史から見る行政と市民の活動

行政の動き

1977年　モエレ沼地区買収開始
1979年　モエレ循環環境利用開始
1982年　「グリーンベルト構想」
1988年　マスタープラン完成
2003年　ガラスのピラミッド記念式典
2005年　公園グランドオープン

市民の動き

1973年　モエレ沼公園化要望
1979年　サーモンカムバック運動
1996年　イサム・ノグチ関連文化活動
2003年　「モエレ沼公園の活用を考える会」（MFC）設立
2011年　同会のNPO法人化

◆ 行政が「整備」「管理」「運営」する公園を、利用主体の「市民」と「行政」が協働して「運営」し、「利活用」を図り、その質向上を目指す。（MFC活動）

⇒①行政と市民の協働
⇒②公園の質

①行政と市民の協働

アートとしての公園

⇒行政と市民の＜公共の財産＞かつ＜未来世代に残す価値のあるもの＞という認識

②公園の質：美的価値づけ

◆ モエレ沼公園＝ 1）人工的自然としての存在
2）芸術としての存在

1）自然自体を作り出す新世代
2）環境における身体（五感）を通した美的体験
⇒＜自然＋芸術＞である公園＝アート作品
⇒アートという美的価値づけによる作品保護意識

＜参考文献＞
[illegible]

3. 環境問題に対するアートの役割

◆ 市民のアートに対する価値意識の高まり
- 札幌国際芸術祭2017
「芸術祭ってなんだ？－ガラクタの星座たち」
プロジェクト「RE/PLAY/SCAPE」（8/6-10/1）
- 市民の要望と市の政策の一致
- 空間と作品の呼応による埋立地の記憶想起

◆ アート体験による意識変化
- ＜地域史＞への眼差し
- ＜自然の豊かさ＞の認識

⇒ 人工的自然への価値づけ

◆ 市民活動の場から観光地へ
⇒ 環境問題への意識喚起の場